

ESD 総合的な学習の時間 指導案

橋本市立三石小学校 第5学年
南 善基

(1) 単元名 三石の町の魅力を考えよう (ESD の町 三石台を目指して)

(2) 単元の目標

- ① 三石台の特徴として駅、三石山、三石だんじり、住宅地(マンションを含む)をとらえ、それぞれにどんな良さがあるのかを調べようとしている。
- ② 三石台の交通面の便利さ、住宅地やマンション等の充実、子どもを中心としただんじり祭りなどを多面的に考え、自らの考えを発信する。
- ③ 将来、三石台へ住む人が増えていく、また、今住んでいる人がこの地域をもっと好きになっていくには自分に何ができるのかを考えることができる。
- ④ より良い三石の町作りには何が必要かを考え、その活動に取り組むことができる。

(3) 単元について

・教材観

和歌山県橋本市三石台は、南海電鉄の林間田園都市駅へ隣接した住宅地である。ここでは、一軒家、マンション、アパートが立ち並び、たくさんの人が住んでいる。この人々は、県外から移住してきた人が多い。この町をベッドタウンとしている。また、大きな道路や南海線を利用し、大阪府や奈良県へのアクセスがしやすくなっている。これらの便利さ以外に特徴は発見しにくい。児童が故郷を愛するという点では、この土地ならではの良さを発見しなければその感情を抱きにくいだろう。そこで、この三石台の魅力を探り、考えていくことは、この町を愛する心を育て、この町をよりよくしていくと考える。

・児童観

本学の児童は、この町について駅や大きな道があるため、すぐに大阪に出られることと、家が密集しているので友達と遊びに行きやすいなどの良さを捉えているだけである。また、住みやすいこと以外には、この町の特徴として自慢できるものや好きなところは特に語ることはできない。

・指導観

本単元では、三石の町の良さや課題を探ることによって、自分の故郷について愛着を持ち、よりよい町にするために自分たちができることは何かを考えて実践していく。単元は、「みつめる」「しらべる」「ふかめる」「ひろげる」の4段階を設け、中心課題に対する振り返りを行う。

「みつめる」では、実際に町を歩いたり、地図を見たりして三石の土地を見つめ直す。また、どんな行事があるか、どんな生活を送っているかを振り返ることで課題を設定する。

「しらべる」では、見通しをもち、目的をもって調べ学習を行う。三石の土地やだんじり等の歴

史について調べて学ぶ。調べる際には、児童の祖父母に協力を得て、インタビューをしたり、市に依頼してゲストティーチャーを招いたりする。

「ふかめる」では、調べたことから、三石の町の魅力について考える。それぞれの魅力を知り、三石の町づくりについて考える。

「ひろげる」では、学習したことから、三石の町をより良くするための取組を考え、実践する。また、考えたことや気づいたことを新聞と発表スライドにまとめて発信する。

・ESDの視点

この学習では、三石の町を知り、町と人、人と人とのつながりを考えることから、何気なく生活している自分の町を見つめ直し、魅力を見出すことを通して、批判的に考える力を育てる。そして、調べたことから、便利な町としてとらえるだけでなく、歴史や自然、人々の関わり(つながりを尊重する態度)などの魅力について考えることで、多面的、総合的に考える力を育てる。次に、将来、自分の町がさらに魅力ある町になっていくにはどうすれば良いか、そのために、自分に何ができるかを考える。(未来像を予想して計画を立てる力)さらに、友達と協力して取組を行ったり(他者と協力する態度)、町の行事等に進んで参加したりする態度を育てる。また、発表を通して、魅力を語れる子になるためにコミュニケーションを行う力(伝達)を育てたい。

子ども達には、自分の住んでいる町に愛着をもち、どんな魅力があるのかを語れるようになってほしい。昔から、伝統的なものや、世界遺産などが無くても、その土地の特徴を捉え、郷土に親しんでほしい。また、将来、大人になってもこの土地に住み続け、より良い町を作る一員となることを願っている。

(4)評価規準

知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
三石の町の良さや課題について知り、自分たちの生活とどう関わっているのかを理解する。	自分達にできることを考え、発信することができる。	自分たちが住んでいる地域に愛着を持ち、地域に主体的に関わろうとする。

(5)単元展開の概要(全12時間)

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
1. 「みつめる」 三石の町の知っていることを交流する。	・三石の町のこと 知らないことがたくさんあることに気づき、学習意欲を高める。	・自分の町の良さなどについて考えることができる。◇思考 【多面】
2～3. 「みつめる」		・三石には、駅、道

<p>三石の町を歩いたり、生活を振り返ったりして見つめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性、相互性、循環性の視点で町のものを見させる。 <p>4～6. 「しらべる」</p> <p>目的をもって、インターネットや書物を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平性、連携性、責任性の観点で実施する。 <p>7. 「ふかめる」</p> <p>調べたことから、三石の町の魅力について考える。それぞれの魅力を知り、三石の町づくりにはどんな意味があるのか考える。</p> <p>8～9. 「ひろげる」調べて考えたことから、自分たちにできることを考え、実践する。</p> <p>10～12. 考えたことや気づいたことを新聞と発表スライドにまとめて発信する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に歩き、見る視点を与えながら振り返る。 ・町の駅や住宅、道などが自分たちの生活とどう関わりあっているのかに目を向けさせる。 ・三石のどんなことを知りたいかを明確にもって調べる。 ・三石に住む者として、すべてのものと人に対しての思い、関わりを話してもらう。 ・町づくりの取組ごとに、町や人にとってどんな意味があるのか考えられるようにする。 ・自分達が思う理想の三石に近づけるために何が必要か考える。 ・グループごとに考えたアイデアを分かりやすく伝える方法を工夫させる。 	<p>路、マンションや一軒家などと自分の生活との関わりに気づくことができる。◇知識技能</p> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、調べ学習をすることができる。◇知識技能 <p>【多面】【協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町づくりと今の三石がどのようなつながりになっているのかを考える。◇思考 <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにできる町づくりの取組を考えることができる。 <p>◇思考・態度 【未来】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手にとって、発表者のメッセージが伝わるように発表する。 <p>◇表現</p> <p>【協力】【伝達】</p>
---	--	--